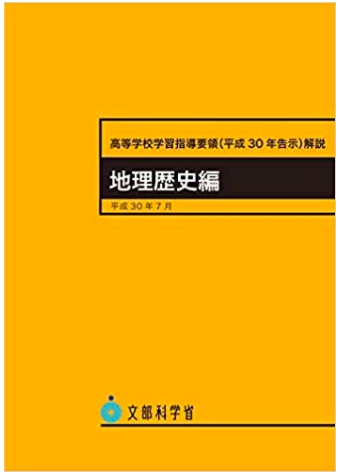
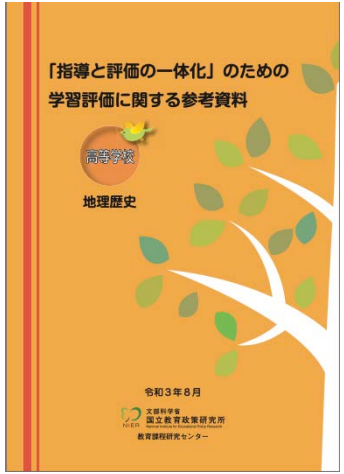
新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
（高等学校　地理歴史科）

文部科学省
初等中等教育局
視学官　　藤野　敦
教科調査官　中嶋　則夫　空　健太

目次

1. 学習指導要領の改訂のポイント
2. 学習評価の進め方
3. 地理歴史科における学習評価のポイント





1. 学習指導要領の改訂のポイント

1-1 地理歴史科の目標と科目編成
1-2 地理領域科目の学習指導の改善・充実の要点
1-3 地理領域科目の構成
1-4 歴史領域科目の学習指導の改善・充実の要点
1-5 歴史領域科目の構成

1-1 地理歴史科の目標と科目編成

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 **柱書**

(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 **知識及び技能**

(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。 **思考力，判断力，表現力等**

(3) 地理や歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。 **学びに向かう力，人間性等**

地理総合

持続可能な社会づくりを目指し，地理的環境と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する。

↓

地理探究

現代世界の諸事象，諸地域を系統地理的，地誌的に考察し，これからの日本の持続可能な国土の在り方について探究する。

歴史総合

課題の解決を視野に入れ，世界とその中における日本について，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する。

↓

日本史探究

我が国の歴史の展開について，世界の歴史や歴史を構成する様々な要素に着目して，総合的に広く深く探究する。

世界史探究

世界の歴史の大きな枠組みと展開について，地理的条件や日本の歴史と関連付けて，広く深く探究する。

各科目の履修については，全ての生徒に履修させる科目である「地理総合」を履修した後に選択科目である「地理探究」を，同じく全ての生徒に履修させる科目である「歴史総合」を履修した後に選択科目である，「日本史探究」，「世界史探究」を履修できるという，この教科の基本的な構造に留意し，各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。　高等学校学習指導要領（平成30年告示）第２章第２節第３款

1-2 地理領域科目の学習指導の改善・充実の要点

	地理総合	地理探究
見方・考え方	ア　「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実	ア　「社会的事象の地理的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
学習の構造	イ　「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開	イ　「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開
	ウ　地図や地理情報システムを活用して育む汎用的で実践的な地理的技能 GIS エ　グローバルな視座から求められる自他の文化の尊重と国際協力 グローバル オ　我が国をはじめとする世界や生徒の生活圏における自然災害と防災 防災	ウ　大項目Ｃの前提としての系統地理的考察と地誌的考察 エ　「現代世界の系統地理的考察」における「交通・通信，観光」の項目化
科目の学習を踏まえた構想	カ　持続可能な地域づくりのための地域調査と地域展望 ＥＳＤ	オ　「現代世界におけるこれからの日本の国土像」を問う探究項目の充実

1-3 地理領域科目の構成　「地理総合」

科目の特徴	持続可能な社会づくりを目指し，環境条件と人間の営みとの関わりに着目して、現代の地理的な諸課題を考察	グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を，地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察	地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで，汎用的で実践的な地理的技能を習得

育成すべき資質・能力

【知識及び技能】
世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取組などの理解，地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能　など

【思考力，判断力，表現力等】
地理に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力　など

【学びに向かう力，人間性等】
よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度 など

「地理総合」の構造　＜持続可能な社会づくりに求められる地理領域科目＞

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界　GIS

⇒ 現代世界の地域構成を地図の読図を通じ，貿易や交通・通信，観光等に関する国内や国家間の結び付きなどの観点から現代世界を概観
⇒ 地理情報システム(GIS)の有用性に気付き，それらを用いる地理的技能を身に付ける

ESD

B　国際理解と国際協力　グローバル

（1）　生活文化の多様性と国際理解

世界の人々の特色ある生活文化を基に，生活文化と地理的環境との関わりなどを考察し，国際理解の重要性について理解する

（2）　地球的課題と国際協力

(1)で学んだ世界の生活文化の多様性を踏まえ，世界各地で見られる地球的課題を基に，地球的課題の現状や要因，解決に向けた取組などを考察し，国際協力の必要性について理解する

C　持続可能な地域づくりと私たち

（1）　自然環境と防災　防災

生活圏の自然災害などを基に，自然環境と自然災害の関わりなどを考察し，地域性を踏まえた防災の重要性などについて理解する

（2）　生活圏の調査と地域の展望

「地理総合」全体のまとめとして，生徒の生活圏の地理的な課題について，観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて，持続可能な地域づくりのために求められる取組などを探究する

1-3 地理領域科目の構成　「地理探究」

構成

「地理総合」の学習を前提に，地理の学びを一層深め，生徒一人一人が「生涯にわたって探究を深める」その端緒となるよう，系統地理的学習，地誌的学習を行う各大項目の学習によって地理学の体系や成果を踏まえた上で，最後に我が国の地理的な諸課題を探究する大項目を科目のまとめとして設けて構成

育成すべき資質・能力

【知識及び技能】
世界の空間的な諸事象の規則性，傾向性や，世界の諸地域の地域的特色や課題の理解，地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能　など

【思考力，判断力，表現力等】
地理に関わる諸事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，系統地理的，地誌的に，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力　など

【学びに向かう力，人間性等】
よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度 など

「地理探究」の構造　＜これからの日本の持続可能な国土像の在り方について探究する地理領域科目＞

A 現代世界の系統地理的考察　事象からのｱﾌﾟﾛｰﾁ

(1) 自然環境　(2) 資源，産業　(3) 交通・通信，観光
(4) 人口，都市・村落　(5) 生活文化，民族・宗教

⇒事象の空間的な規則性，傾向性や関連する課題の要因を捉える学習を通して，現代世界の諸事象の地理的認識を深める
⇒系統地理的な考察の手法を身に付ける

B 現代世界の地誌的考察　地域からのｱﾌﾟﾛｰﾁ

(1)現代世界の地域区分　(2) 現代世界の諸地域

⇒「現代世界の系統地理的考察」の学習を踏まえ，選択した地域の地域性と諸課題を捉える学習を通して，現代世界の諸地域の地理的認識を深める
⇒地誌的な考察の手法を身に付ける

C　現代世界におけるこれからの日本の国土像と私たち　(1) 持続可能な国土像の探究　総合的なｱﾌﾟﾛｰﾁ

⇒大項目Ａ，Ｂの学習成果を踏まえ，我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土像の在り方を構想する学習を通して，持続可能な国土像を探究する
⇒スパイラルする主体的な学習活動である探究の手法を理解する

1-4 歴史領域科目の学習指導の改善・充実の要点

	歴史総合	日本史探究	世界史探究
見方・考え方	ア　「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実	ア　「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実	ア　「社会的事象の歴史的な見方・考え方」に基づく学習活動の充実
学習の構造	イ　「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開 ウ　単元や内容のまとまりを重視した学習の展開	イ　「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開 ウ　単元や内容のまとまりを重視した学習の展開	イ　「主題」や「問い」を中心に構成する学習の展開 ウ　単元や内容のまとまりを重視した学習の展開
科目の特徴	エ　歴史の大きな変化に着目し，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える内容の構成	エ　「歴史の解釈，説明，論述」を通じた知識，概念の深い理解と思考力，判断力，表現力等の一層の重視	エ　世界の歴史の大きな枠組みと展開を捉える内容の構成
資料活用	オ　資料を活用し，歴史の学び方を習得する学習	オ　資料を活用し，歴史の学び方を習得する学習	オ　資料を活用し，歴史の学び方を習得する学習
構想探究	カ　現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する学習	カ　歴史的経緯を踏まえた現代の日本の課題の探究	カ　歴史的経緯を踏まえた地球世界の課題の探究

＜参考＞高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編 pp. 21～28

1-5 歴史領域科目の構成　「歴史総合」

A　歴史の扉
(1) 歴史と私たち
(2) 歴史の特質と資料

【大項目Ａの性格】「歴史総合」の導入として，中学校までの学習を振り返りながら，**歴史を学ぶ意義**や**歴史の学び方を学習**
(1) **自分の生活や身近な地域の歴史が日本や世界の歴史とつながっていることを理解**したり，その関連性について考察したりする
(2) **資料**から情報を読み取り，その意味や意義等を考察・表現する

【大項目B~Dの構造】
中項目(1)で大項目を見通した問いを立てた上で，(2)(3)で以下の内容を扱い，(4)で大項目の振り返り／科目全体のまとめを行う

	【主な内容】	【現代的な諸課題の形成に関わる歴史の大きな変化】
B　近代化と私たち (1)近代化への問い (2)結び付く世界と日本の開国 (3)国民国家と明治維新 (4)近代化と現代的な諸課題	○ 18世紀のアジアの経済と社会，アジア諸国と欧米諸国の接触・交流，日本やアジア諸国と欧米諸国の関係の変容　など ○ 欧米諸国の市民革命，日本の近代化や国民国家形成の動き，列強の帝国主義政策，アジア諸国とその他の国や地域の動向 など	○　産業社会と国民国家の形成を背景として，人々の生活や社会の在り方が変化したこと。
C　国際秩序の変化や大衆化と私たち (1)国際秩序の変化や大衆化への問い (2)第一次世界大戦と大衆社会 (3)経済危機と第二次世界大戦 (4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	○ 第一次世界大戦の展開・性格と惨禍、ソ連の成立とアメリカの台頭，戦後の国際秩序の形成，大衆社会の形成と社会運動の広がり，大正デモクラシーと政党政治 など ○ 世界恐慌と国際協調体制の変容，第二次世界大戦の展開・性格と惨禍，戦後世界の形成、日本の国際社会への復帰 など	○　政治，外交，経済，思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり，国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として，人々の生活や社会の在り方が変化したこと。
D　グローバル化と私たち (1)グローバル化への問い (2)冷戦と世界経済 (3)世界秩序の変容と日本 (4)現代的な諸課題の形成と展望	○ 冷戦の展開と国際政治の変容，世界経済の拡大と経済成長下の日本社会 など ○ 市場経済の変容と課題，冷戦終結後の国際政治の変容と課題 など	○　科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報等が国境を越えて一層流動するようになり，人々の生活や社会の在り方が変化したこと。

1-5 歴史領域科目の構成　「日本史探究」

歴史総合で学習した歴史の学び方を活用

前近代の学習による思考力等の育成

A　原始・古代の日本と東アジア

(1)黎明期の日本列島と歴史的環境
(2)歴史資料と原始・古代の展望
(3)古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈，説明，論述）

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性，解釈や画期

B　中世の日本と世界

(1)中世への転換と歴史的環境
(2)歴史資料と中世の展望
(3)中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈，説明，論述）

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性，解釈や画期

C　近世の日本と世界

(1)近世への転換と歴史的環境
(2)歴史資料と近世の展望
(3)近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈，説明，論述）

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性，解釈や画期

D　近現代の地域・日本と世界

(1) 近代への転換と歴史的環境
(2) 歴史資料と近代の展望
(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造
(4) 現代の日本の課題の探究

時代を通観する問い
資料からの仮説
意味や意義・関係性，解釈や画期
（近現代を通した歴史の画期の表現）
構想

1-5 歴史領域科目の構成　「世界史探究」

歴史総合で学習した歴史の学び方を活用

A　世界史へのまなざし
（１）地球環境から見る人類の歴史
（２）日常生活から見る世界の歴史

B　諸地域の歴史的特質の形成
（１）諸地域の歴史的特質への問い
（２）古代文明の歴史的特質
（３）諸地域の歴史的特質

C　諸地域の交流・再編
（１）諸地域の交流・再編への問い
（２）結び付くユーラシアと諸地域
（３）アジア諸地域とヨーロッパの再編

D　諸地域の結合・変容
（１）諸地域の結合・変容への問い
（２）世界市場の形成と諸地域の結合
（３）帝国主義とナショナリズムの高揚
（４）第二次世界大戦と諸地域の変容

E　地球世界の課題
（１）国際機構の形成と平和への模索
（２）経済のグローバル化と格差の是正
（３）科学技術の高度化と知識基盤社会

導入

歴史の大きな枠組みと展開の理解

探究

E　地球世界の課題　（４）地球世界の課題探究

2. 学習評価の進め方

2-1 教科目標と観点及びその趣旨
2-2 地理歴史科における「内容のまとまり」
2-3 「内容のまとまりごとの評価規準」の作成
2-4 「単元の評価規準」の作成のポイント
2-5 単元における各観点の評価規準の作成の留意点

2-1 教科目標と観点及びその趣旨

教科目標（高等学校学習指導要領　p.48）

社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）	（2）	（3）
現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。	地理や歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵(かん)養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観点及びその趣旨：改善等通知（別紙5 p.1）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したり，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりしている。	地理や歴史に関わる諸事象について，国家及び社会の形成者として，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

2-2 地理歴史科における「内容のまとまり」

〔地理総合〕

A　地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 地図や地理情報システムと現代世界
B　国際理解と国際協力	(1) 生活文化の多様性と国際理解
B　国際理解と国際協力	(2) 地球的課題と国際協力
C　持続可能な地域づくりと私たち	(1) 自然環境と防災
C　持続可能な地域づくりと私たち	(2) 生活圏の調査と地域の展望

〔地理探究〕

A　現代世界の系統地理的考察	(1) 自然環境
A　現代世界の系統地理的考察	(2) 資源，産業
A　現代世界の系統地理的考察	(3) 交通・通信，観光
A　現代世界の系統地理的考察	(4) 人口，都市・村落
A　現代世界の系統地理的考察	(5) 生活文化，民族・宗教
B　現代世界の地誌的考察	(1) 現代世界の地域区分
B　現代世界の地誌的考察	(2) 現代世界の諸地域
C　現代世界におけるこれからの日本の国土像	(1) 持続可能な国土像の探究

〔歴史総合〕

A　歴史の扉
B　近代化と私たち
C　国際秩序の変化や大衆化と私たち
D　グローバル化と私たち

〔日本史探究〕

A　原始・古代の日本と東アジア
B　中世の日本と世界
C　近世の日本と世界
D　近現代の地域・日本と世界

〔世界史探究〕

A　世界史へのまなざし
B　諸地域の歴史的特質の形成
C　諸地域の交流・再編
D　諸地域の結合・変容
E　地球世界の課題

高等学校地理歴史科では
・地理領域科目では「内容」の中項目が
・歴史領域科目では「内容」の大項目が
「内容のまとまり」となる。

2-3「内容のまとまりごとの評価規準」の作成

「参考資料」
pp.32-34

【例】「地理総合」B(1)「生活文化の多様性と国際理解」

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

学習指導要領 2 内容	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
	(ｱ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に，人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解すること。 (ｲ) 世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解すること。	(ｱ) 世界の人々の生活文化について，その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し，表現すること。	（※学習指導要領の「2　内容」には，「学びに向かう力，人間性等」について関わる事項は示されていない。）

学習指導要領の中項目を基に，「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

内容のまとまりごとの評価規準(例)

※「学習評価の参考資料」の巻末資料を参照

内容のまとまりごとの評価規準（例）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・世界の人々の特色ある生活文化を基に，人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや，地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に，自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	・世界の人々の生活文化について，その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して，主題を設定し，多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。	・生活文化の多様性と国際理解について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

「知識・技能」
生徒が「…理解している」かどうか，「…身に付けている」かどうかの学習状況として表す。

「思考・判断・表現」
生徒が「…考察（，構想）し，表現しているかどうかの学習状況として表す。

「主体的に学習に取り組む態度」
「科目の評価の観点の趣旨」における「主体的に学習に取り組む態度」を基に作成する。

科目別の観点の趣旨参照

2-4「単元の評価規準」の作成のポイント

① 年間の「指導と評価の計画」を確認
↓
② 学習指導要領の目標や内容，「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ，「単元の評価規準」を作成

※原則として「内容のまとまりごとの評価規準」を基に，各科目の項目構成の特色を踏まえて作成

※「内容のまとまり」の一部を単元としたり，「内容のまとまり」を超えて単元としたりすることも考えられる。
→ 各学校で指導計画や評価計画を作成する際に工夫することが求められる。

評価の進め方	留意点
1 単元の目標を作成する	○ 学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成する。 ○ 生徒の実態，前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。 ※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図参照
2 単元の評価規準を作成する	単元の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図） 学習指導要領（第１編第２章１（２）を参照） 「内容のまとまりごとの評価規準」 学習指導要領解説等を参考に，各学校において授業で育成を目指す資質・能力を明確化 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて作成 単元の目標（第３編第１章２を参照） 単元の評価規準 ※ 外国語科においてはこの限りではない。
3 「指導と評価の計画」を作成する	○ １，２を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。 ○ どのような評価資料（生徒の反応やノート，ワークシート，作品等）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり，「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。
授業を行う	○ ３に沿って観点別学習状況の評価を行い，生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。
4 観点ごとに総括する	○ 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。

2-5 単元における各観点の評価規準の作成の留意点

① 「知識・技能」について

（知識）社会的事象等の特色や意味，理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。

（技能）「高等学校学習指導要領解説地理歴史編」p.364（「参考資料２　社会的事象について調べまとめる技能」）参照。

→単元の目標及び，その評価規準においても，**細かな事象を羅列してその習得のみを求めることのないよう留意**することが必要である。

② 「思考・判断・表現」について

各単元において，それぞれの**「見方・考え方」を視野に，具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要**。単元を見通した**「問い」を設定し**，「社会的な見方・考え方」を働かせることで，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連等を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが可能となる。

③ 「主体的に学習に取り組む態度」について

現実の社会的事象を扱うことのできる地理歴史科ならではの「主権者として，持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」（「解説」p.9）が必要である。

この教科の特性を踏まえつつ，この観点については，**単元を越えて評価規準を設定するなど，ある程度長い区切りの中で評価**することも考えられる。

3. 地理歷史科における学習評価のポイント

3-1 「学習改善につなげる評価」と「評定に用いる評価」

3-2 地理領域科目における学習評価のポイント

3-3 歴史領域科目における学習評価のポイント

3-1 「学習改善につなげる評価」と「評定に用いる評価」

日々の授業の中では生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことに重点を置きつつ，単元を見通して，観点別学習状況の評価をするために必要な記録を取ることになる。

- **「学習改善につなげる評価」**… ●
  学習状況を見取り，生徒の成長を認め励ますとともに必要に応じて指導，支援を行う日常の学習改善につなげる評価（机間指導やワークシートなどを活用しつつ、学習状況を確認する。A,B,Cなどの記録は、必ずしも必要としない。）

- **「評定に用いる評価」**…○
  観点別学習状況の評価や評定のための資料として用いる評価（A,B,Cなどの記録を行う）

「参考資料」に示す各事例には，●○という記号を付して，その評価場面を示している。

	課題 a「18 世紀頃の中国や日本では，それぞれどのような商品がどのように生産され，流通していたのだろうか」 課題 b「あなたは，18 世紀頃の中国と日本の商品生産や流通を比較したとき，その共通点と相違点のうち，何が重要だと考えるか，それはなぜか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
			●		●18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，18 世紀のアジア諸国における経済活動の特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。
	第②次 アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易 課題 a「18 世紀頃のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易・交易はどのような特徴をもっていたか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
	課題 b「あなたは，なぜアジアでは欧米諸国が求める商品を供給できたと考えるか」		●		●18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア各地域間の関係，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現している。
	第③次 まとめ ・各次の学習内容を踏まえて，小単元２全体に関わる問いについて，資料を活用して考察し，その結果を表現する。		○		○18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して，小単元２全体に関わる問いについて考察し，表現している。
		○			○「18 世紀のアジアの経済と社会」について理解している。
小単元3	【ねらい】産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，工業化と世界市場の形成を理解する。 主題「産業革命が世界各地に与えた影響」				
	小単元３の学習の見通し ・小単元３全体に関わる問い「イギリスに始まる産業革命は，世界各地の社会や経済をどのように変えたのだろうか，また，その変化は，アジアと欧米の関係をどのように変えたのだろうか」を考察する。			●	●小単元３全体に関わる問いの答えを予想することで小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。

<参考資料　p.91>

3-2 地理領域科目における学習評価のポイント①

地理領域科目　各中項目の基本的な構造

【位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域】などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動※を通して，次の事項を身に付けるよう指導する ※最終の中項目は「探究する活動」

適切な「主題」とそれに基づく「問い」を立て，それらを中心に構成した学習活動

ア知識(及び技能)

イ思考力，判断力，表現力等

■■について，●●などに着目して，**主題を設定し，**▲▲などを**多面的・多角的に考察（，構想）し，表現すること**※

※地理探究C(1)は「探究し，表現すること」

「知識（及び技能）」と「思考力，判断力，表現力等」で示された事項は，各中項目の特質に応じて互いに関連させて取り扱うことが必要（解説p.45,p.86）

地理総合B(2)「地球的課題と国際協力」の場合	
知識	● 地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解すること ● 地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解すること
思考力，判断力，表現力等	● 世界各地で見られる地球環境問題などの地球的課題について，地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して，**主題を設定し，**現状や要因，解決の方向性などを**多面的・多角的に考察し，表現すること**

3-2 地理領域科目における学習評価のポイント②

社会的事象の地理的な見方・考え方

社会的事象を，**位置や空間的な広がり**に着目して捉え，**地域の環境条件や地域間の結び付き**などの**地域という枠組み**の中で，**人間の営み**と関連付けること

社会的事象を「地理に関わる事象」として捉えたり，社会に見られる課題を「地理的な課題」として考察したりする際の**視点**

五つの視点	各視点に関連する主な問い➡想定される効果・発展　解説　地理歴史編pp.41-42
位置，分布	「それはどこに位置するのか，それはどのように分布するのか」 ➡「なぜそこに位置するのか」「なぜそのような**分布の規則性，傾向性**を示すのか」という問いに発展
場所	「それはどのような場所なのか」 ➡場所の特質が浮かび上がり，他の場所との比較によって**地方的特殊性と一般的共通性を探る**ことに結び付く
人間と自然環境との相互依存関係	「そこでの生活は，周囲の自然環境からどのような影響を受けているか」「そこでの生活は，周囲の自然環境にどのようにな影響を与えているか」 ➡地域的特色の理解，地域の**環境開発や環境保全を考える際の重要な基礎**となる
空間的相互依存作用	「そこは，それ以外の場所とどのような関係をもっているのか」「なぜそのような結び付きをしているのか」 ➡**地域間の相互依存や協力，競合などの関係を明確化**したり，空間的な関係性の要因の考察により地域的な特色を明らかにしたりするとともに，地域開発等の課題を見いだし，**地域の将来像を構想すること**にもつながる
地域	「その地域は、どのような特徴があるのか」「この地域と他の地域では，どこが異なっているのか」「なぜ，この地域はそのようになったのか」 ➡地域の一般的共通性と地方的特殊性，自然環境との関わり，他地域との結び付き，**それらがどのように変容しながら，現在の地域が形成されたのかを考察**　「どのような地域にすべきか」という問いに対する考察へ発展

3-2 地理領域科目における学習評価のポイント③

地理総合の各中項目で身に付ける「知識及び技能」

中項目名			知識及び技能（□は知識，■は技能）
A	(1)	地図や地理情報システムと現代世界	□方位や時差，日本の位置と領域，国内や国家間の結び付きなど □**地図や地理情報システムの役割や有用性**など ■現代世界の様々な地理情報について，地図や地理情報システムなどを用いて，その情報を収集し，読み取り，まとめる基礎的技能
B	(1)	生活文化の多様性と国際理解	□人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり，影響を与えたりして多様性をもつことや地理的環境の変化によって変容することなど □**自他の文化を尊重することの重要性**など
	(2)	地球的課題と国際協力	□地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性など（について大観し） □地球的課題の解決には，持続可能な社会の実現を目指した**各国の取組や国際協力が必要であること**など
C	(1)	自然環境と防災	□地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わり □**自然災害の規模や頻度，地域性を踏まえた備えや対応の重要性**など ■各種の地理情報について，その情報を収集し，読み取り，まとめる地理的技能
	(2)	生活圏の調査と地域の展望	□地理的な課題の解決に向けた取組や**探究する手法**など

「重要性」などに関する「知識」についての理解と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を同じ場面で行うなどの工夫も考えられる。

3-3 歴史領域科目における学習評価のポイント①

大項目内の構造（B「近代化と私たち」）

「参考資料」p.95

中項目(1)　近代化への問い

小単元１

(1) 小項目(ｱ)

交通と貿易，産業と人口，権利意識と政治参加や国民の義務，学校教育，労働と家族，移民などに関する資料を活用し…

・資料を活用する技能を身に付ける。

・近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現する。

中項目(2)　結び付く世界と日本の開国
中項目(3)　国民国家と明治維新

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，多面的・多角的に考察，表現し，

(2) 小項目(ｱ)　小単元２

18世紀のアジアの経済と社会

小項目(ｲ)　小単元３

工業化と世界市場の形成

(3) 小項目(ｱ)　小単元４

立憲体制と国民国家の形成

小項目(ｲ)　小単元５

列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容
などを理解する。

中項目(4)
近代化と現代的な諸課題

小単元６

(4) 小項目(ｱ)

現代的な諸課題につながる歴史的な観点（自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調など）から主題を設定し，
諸資料を活用して，
追究したり解決したりする活動を通して考察し，

現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史
を理解する。

課題把握 → 課題追究 → まとめ・振り返り

3-3 歴史領域科目における学習評価のポイント②

「参考資料」
pp.92-94

B（2）「工業化と世界市場の形成」（小単元３）観点別学習状況の評価の進め方とその留意点

小単元3	【ねらい】産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，工業化と世界市場の形成を理解する。 主題「産業革命が世界各地に与えた影響」				
	小単元３の学習の見通し ・小単元３全体に関わる問い「イギリスに始まる産業革命は，世界各地の社会や経済をどのように変えたのだろうか，また，その変化は，アジアと欧米の関係をどのように変えたのだろうか」について考察する。			●	●小単元３全体に関わる問いの答えを予想することで小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。
	第①次 産業革命と交通・通信手段の革新 課題a「なぜイギリスで産業革命が展開したのか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
	課題b「あなたは，産業革命が人々の生活をどのように変化させたと考えるか」		●		●産業革命の影響に着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。
	第②次 中国の開港と日本の開国 課題a「欧米は，なぜ中国の開港，日本の開国を求めたのだろうか，中国や日本は，その後，貿易の拡大にそれぞれどう対応したのだろうか」	●			●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
	課題b「あなたは，中国の開港と日本の開国が国際社会に与えた影響のうち，最も重要なものは何だと考えるか，それはなぜか」		●		●中国の開港と日本の開国の背景とその影響に着目して，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。
	第③次 まとめ ・各次の学習内容を踏まえて，小単元３全体に関わる問いについて，資料を活用して考察し，その結果を表現する。		○		○産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して，小単元３全体に関わる問いについて考察し，表現している。
		○			○「工業化と世界市場の形成」について理解している。
	・小単元２・３の学習をふまえて小単元１で表現した問いについて確認し，必要に応じて修正する。			●	●自身の学習について振り返り，調整しようとしている。

（１）「知識・技能」の観点

・各「次」にある●印は，「技能」を確認する場面を表している。
・小単元の最終「次」にある○印は，資料や既習の知識を活用しつつ，「工業化と世界市場の形成」について，概念的な知識が獲得されていることが評価の対象となることを表している。

（２）「思考・判断・表現」の観点

・各「次」にある●印は，各次の課題について「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせて考察するという，生徒の学習の過程を確認する場面を表している。
・小単元の最終「次」にある○印は，それまでの学習内容を踏まえて「小単元全体に関わる問い」について考察した結果を、生徒の学習の過程に着目して評価することを表している。

（３）「主体的に学習に取り組む態度」の観点

・小単元のまとめにある●印は，学習内容を踏まえて、小単元(1)で生徒が表現した「近代化に伴う生活や社会の変容についての問い」との関係の確認や、見直しを行い、学習を振り返り，学びの調整力を働かせることを確認する場面であることを表している。

3-3 歴史領域科目における学習評価のポイント③

社会的事象の歴史的な見方・考え方

社会的事象を**時期や推移などとの関わり**に着目して捉え、**類似や差異など**を明確にしたり、事象同士を**因果関係などで関連付けたりする**こと

＜課題（問い）の設定の例　「歴史総合」「解説」より＞　※類似の記載が日本史探究，世界史探究にも掲載

○時系列に関わる問い

【時期や年代】

「それはいつの出来事だろうか，同じ時期に他の地域ではどのようなことが起こっていたのだろうか」

「その事象はどのような経緯で起こったのだろうか」

【過去の理解】

「当時の人々はなぜそのような選択をしたのだろうか（現代とはどのような異なる時代背景があったと考えられるだろうか）」

○諸事象の推移に関わる問い

【変化と継続】

「このことで何を変えようとしたのだろうか，何が変わったのだろうか，何が変わらなかったのだろうか」

「複数の諸事象の変化には，どのような違いがあるだろうか」

○諸事象の比較に関わる問い

【類似と差異】

「その事象と他の事象を比較すると，どのような共通点と相違点を見いだすことができるだろうか」

「その違いが生じたのはなぜだろうか」（【背景や原因】と共有される問い）

「共通点に注目すると，どのような傾向が見いだせるだろうか」（【意味や意義と特色】と共有される問い）

【意味や意義と特色（特徴）】

「その事象は，当時どのような意味をもっていたのだろうか」

「その事象は，違う立場から考えると，どのような意味があったと考えられるだろうか」

「他の生徒が考察したその事象の意義について，あなたはどう考えるか」

○事象相互のつながりに関わる問い

【背景や原因】

「なぜ，その事象は起こったのだろうか」

「この事象の背景にはどのような状況が存在したのだろうか」

「あなたは，その事象が起こった最も重要な要因とは何だと考えるか」

「あなたが学習した諸事象の中で，その事象と最も深いつながりがあると考えるのは何か，それはなぜか」

【影響や結果】

「同じ時期に共通する特徴をもった事象が複数起こったのはなぜだろうか」

「この事象の結果，どのような変化が生じたのだろうか」

「その事象は，社会全体にどのような影響を及ぼしたと考えられるだろうか」

○現在とのつながりに関わる問い

【歴史と現在】

「過去の事象と類似した現代の事象は何だろうか」

「現在の事象と，どのような点が関連しているのだろうか」

「どのようなことが現在につながる変化の要因として考えられるだろうか」

【歴史的な見通し，展望】

「この事象は，後の人々にどのような考えや課題をもたらすと考えられるか」

「（現在の）この事象は，過去の類似の事例を参考にすると，その後，どのような展開の可能性があると考えられるか」

「（現在の）この事象は，この後，どのような展開が望ましいと考えるか，それが実現されるためには，過去の事例を踏まえると，どのようなことが必要なのだろうか」

【自己との関わり】

「この事象を学ぶことは，あなたにとってどのような意味があると考えるか」

＜参考＞高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編 pp.132-133

3-3 歴史領域科目における学習評価のポイント④

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

B(4)「近代化と現代的な諸課題」　（小単元６）（大中項目のまとめ）の学習活動の評価

(4)近代化と現代的な諸課題	小単元6	【ねらい】自由・制限，平等・格差，開発・保全，統合・分化，対立・協調などの観点から設定された主題について多面的・多角的に考察し，表現することを通して，現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。 ＜課題１＞ 主題「貿易を巡る国内や国家間の対立」（自由・制限を観点に） 課題（問い）「貿易を巡る問題が，なぜ国論を二分したり戦争へ発展したりするのだろうか，また，この問題は，現代に続く課題とどのような点が関連しているのだろうか」 ＜課題２＞ ・小単元１で表現した問いを振り返ろう。					
	★事例8 108ページ	＜課題１＞ ・課題（問い）について，これまでの学習を振り返り，資料を活用して，現代的な諸課題との関連を考察し，話し合った結果を表現する。 ⇒＜学習内容のまとめ＞	○	○		○事象の背景や原因，結果や影響などに着目して，主題について，現代的な諸課題に関連付けて，多面的・多角的に考察し，表現している。 ○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解している。
		＜課題２＞ ・小単元１で表現した問いを振り返り，新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。			○	○「近代化と私たち」における学習の経緯について，よりよい社会の実現を視野に，自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに，次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

・「知識・技能」「思考・判断・表現」の○印は，＜課題１＞について評価する場面を表している。

＜課題２＞⇒**＜自身の学習の取組や学習の方法などについての確認や調整＞**

・生徒が小単元１で表現した問いを踏まえ，大項目B全体の学習状況を自身との関わりを踏まえて振り返り，学びを確認したり調整しようとしたり，今後の学習へのつながりを見いだそうとしていることなどについて評価を行うことが考えられる。

→単元のまとめなど，生徒が振り返りを行う場面を計画的に設定することが重要

3-3 歴史領域科目における学習評価のポイント⑤

学習の過程と評価の在り方（B「近代化と私たち」の場合）

「参考資料」
p.95

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1)近代化への問い (小単元1) ●近代化に伴う社会の変容について，資料から情報を読み取ったり，まとめたりしている	●近代化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現している	●大項目に対する学習の見通しをもって，学習に取り組もうとしている。
(2)結び付く世界と日本の開国 (小単元2) …を基に， ●…情報を適切かつ効果的に調べまとめ ○…について理解している (小単元3) 産業革命と交通・通信手段の革新，中国の開港と日本の開国などを基に， ●諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ， ○ 工業化と世界市場の形成について理解している	○…などに着目して，主題について，…を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，…などを多面的・多角的に考察し，表現している ○ 産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して，主題について，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している	●学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 ・各小単元での見通し ・中項目ごとでの、学習内容と自身の「近代化への問い」との関係の確認や，「問い」の見直しなど
(3)国民国家と明治維新 (小単元4) (小単元5) 省略	省略	
(4)近代化と現代的な諸課題 (小単元6) ○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解している	○事象の背景や原因，結果や影響などに着目して，…を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，主題について，多面的・多角的に考察し，表現している	○よりよい社会の実現を視野に，自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに，次の学習へのつながりを見いだそうとしている

「見方・考え方」を働かせて　主題⇒課題(問い)

学習の過程での「知識・技能」と「思考・判断・表現」の関係

大項目Ｂ「近代化と私たち」の学習の過程とその評価の在り方について示した模式図。

○印…評定に用いる評価の場面
●印…学習改善につなげる評価

大項目が一つの大きな単元としての構造をもつことに留意し，それらに沿った評価活動を行うことが重要。

「学習評価に関する参考資料」掲載の各事例

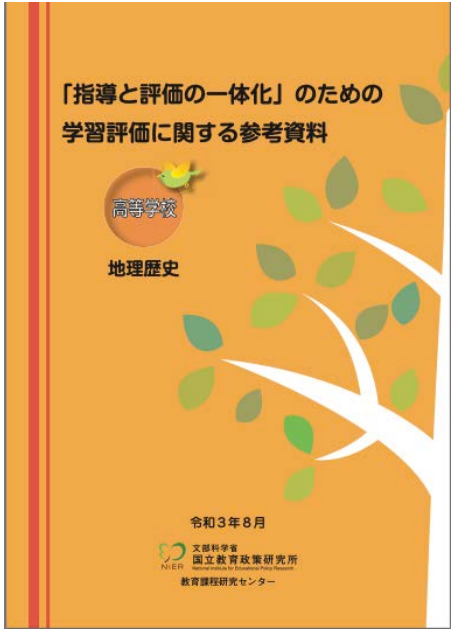
【地理総合】
事例1〔単元を見通した評価の総括の仕方〕（A(1)「地図や地理情報システムと現代世界」）
事例2〔思考力等を問うペーパーテストを用いた評価の工夫〕（B(1)「生活文化の多様性と国際理解」）
事例3〔ワークシートを用いた「技能」,「主体的に学習に取り組む態度」の評価〕（C(1)「自然環境と防災」）

【地理探究】
事例4〔内容のまとまり（中項目）を分割した評価，総合した評価　（A(3)「交通・通信、観光」）
事例5〔構想，探究場面における各観点の評価〕（C(1)「持続可能な国土像の探究」）

【歴史総合】
事例６〔「内容のまとまり」を踏まえた指導計画と評価計画〕（Ｂ「近代化と私たち」）
事例７〔「知識・技能」，「思考・判断・表現」 の評価の工夫〕（Ｂ(3)「国民国家と明治維新」(ｲ)）
事例８〔「主体的に学習に取り組む態度」 の評価の工夫〕（Ｂ(4)「近代化と現代的な諸課題」）

【日本史探究】
事例９〔「内容のまとまり」を踏まえた指導計画と評価計画〕（Ｃ「近世の日本と世界」）
事例10〔「思考・判断・表現」 の評価の工夫〕（Ｄ (3)(ｵ)近現代を通した歴史の画期）

【世界史探究】
事例11〔「内容のまとまり」を踏まえた小単元の評価の位置付け〕
（Ｄ(1)「諸地域の結合・変容への問い」）
事例12〔探究する活動における評価の工夫〕（Ｅ(4)「地球世界の課題の探究」）



新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
（高等学校　地理歴史科）

文部科学省
初等中等教育局
視学官　　藤野　敦
教科調査官　中嶋　則夫　空　健太